

2021 年度以降のサステナビリティファイナンス

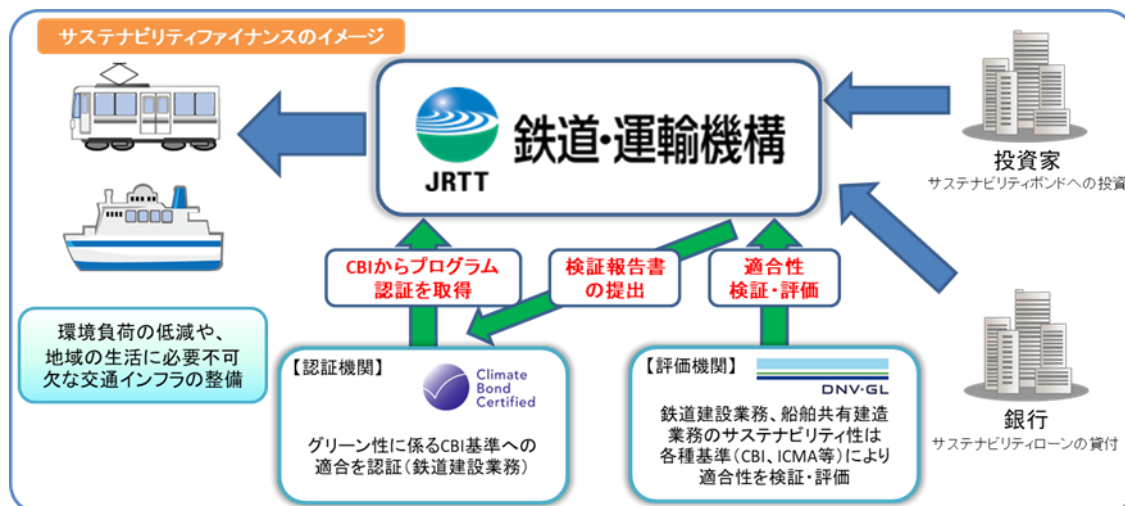
鉄道・運輸機構（以下「当機構」）は、2019年2月に各種機関が定める基準に適合したサステナビリティファイナンスを導入し、合わせて国際 NGO である CBI から環境改善効果について認証（プログラム認証）を取得しました。2019 年度及び 2020 年度はサステナビリティファイナンスによる資金調達を実施してきたところです。

この度、2020 年 11 月 10 日に CBI より公表されました海上輸送の CBI 基準につきまして、当機構の船舶共有建造業務（海事勘定）に対する基準の適合性の検討を行いました。

その結果、船舶共有建造業務（海事勘定）では当分の間、国際資本市場協会（ICMA）が定めた原則等に基づくサステナビリティファイナンスによる資金調達を行うことといたしました。

なお、鉄道建設業務（建設勘定）では、2021 年度以降も引き続き CBI 認証付きのサステナビリティファイナンスを行う予定です。

○ サステナビリティファイナンスのイメージ（図）



（参考）2021 年度の資金調達計画（予定）

1. サステナビリティボンド

820 億円 鉄道建設業務（建設勘定） CBI 基準及び ICMA 原則など

2. サステナビリティローン

701.6 億円 鉄道建設業務（建設勘定） CBI 基準及び ICMA 原則など

70 億円 船舶共有建造業務（海事勘定） ICMA 原則など